

## 早期からの継続的な児童支援と親支援

既存の校内組織を生かした早期からの継続的な支援の在り方

柏市立柏第七小学校

電話 04-7145-9338

FAX 04-7146-4571



### 研究のポイント

「小1プロブレム」「中1ギャップ」の言葉に代表される「環境の変化による戸惑い」を少しでも軽減していくためにはどうすればよいか。特に、支援が必要な児童の幼児期から就学期の連携の重要さが大きくクローズアップされている中で、支援が必要な児童や保護者を早期から支援し、地域や関係機関とどうつながっていくか…切れ目のない支援体制について探っていく。

#### ■学校の概要 <http://www.dai7-e.kashiwa.ed.jp/>

学校教育目標 「心豊かで たくましい子どもの育成」

～目指す児童像～ <かがやきのある七小っ子>

本校は柏市中部に位置する全校児童622名の小学校である。学級数は、22学級で、通常の学級が19クラス、知的障害特別支援学級「ひまわり学級」が3クラスある。平成27年度からは、千葉県立千葉盲学校のサテライト教室も校内に開設されている。

また、部活動が盛んで、運動部(陸上・ミニバス・駅伝)、吹奏楽部、バトン部、地域の伝統芸能を受け継ぐ「伝承クラブ」があり、地域の公式行事や市内外の大会で活躍している。

特別支援教育に関しては、今年度は特別支援教育コーディネーター5名を配置し、校内の支援体制の充実と早期支援の構築に向けた取組を行ってきた。担任や保護者が一人で悩みを抱え込まないように、学校全体としてチームで支援する体制を整えると共に、就学前児童の保護者や地域との連携を強化するための方策を探ってきた。また、柏市スクールカウンセラーによる教育相談も定期的を実施しており、相談事業にも力を入れている。

#### ■研究課題

- 学区内の幼稚園・保育園・認定こども園，児童センターとの連携をどう強化していくか。
- 就学前の児童や保護者に対し，早期支援をどのように広げ，つながりを深めていくか。

#### ■研究の目的と方法

##### 1 研究の目的

- (1)学区内の関係機関と連携し，就学移行期の切れ目のない支援を目指す。
- (2)就学前の児童や保護者と早期から関わりを持つことで，安心して入学を迎え，学校生活に希望が持てるようする。

## 2 研究の方法

- (1) 特別支援教育の研修を行い、組織で対応できるようにする。
- (2) 学区内の関係機関と情報を共有し合い、協同して児童や親を支援できるよう、関係者会議を開催する。
- (3) 就学前の児童や保護者を早期から支援できるよう、入学前相談会を実施する。

## ■研究概要

### 1 今年度の取組内容

#### (1) 教職員への理解啓発

- ・校内研修の一環として、7月に特別支援教育と早期支援の重要性に関わる研修を実施

#### (2) 学区内の幼稚園・保育園・認定こども園・児童センターと連携

- ・研究の概要説明のため、学区内の8施設を訪問
- ・10月に本校にて、関係機関の代表者が集まり、「地域教育支援会議」を開催

#### (3) 児童や親への早期支援

- ・入学前に不安を感じている児童や保護者に対して「入学前相談会」を開催(年3回6～7月, 10～11月, 2～3月)

案内については、学区内の関係機関にポスターの掲示を依頼 また、運動会での就学前児レースの景品にチラシを同封

- ・入学予定の児童を対象に幼保小の交流・体験活動を通して、「学校ごっこ」を実施
- ・特別支援学級の保護者を対象に校内でペアレント・プログラムを開催

### 2 研究成果

#### (1) 校内支援体制の充実

- ・平成28年度から特別支援教育コーディネーターと早期支援コーディネーターが連携したり、校内研修を行ったりしたことで、特別支援教育に対する教職員の理解が深まり、早期支援の視点を持って、児童や保護者の支援にあたれるようになってきた。

#### (2) 関係機関との連携強化

- ・関係機関への訪問や地域教育支援会議を通して、互いの関係を強化することができた。就学前の保護者から相談があった際にも、該当児童の情報を在籍園と共有することができ、児童や家庭への理解が深まった。
- ・学区内の児童センターで活動したり、遊んだりしている児童の中で、気になる児童については学校と児童センターで情報を共有できるようになった。

#### (3) 早期からの支援体制の構築

- ・入学前相談会を開催し、実際に本校職員と保護者が話したことで、入学に対して不安が軽減され、安心感を得ることができた。また、事前に相談があった児童に対しては、就学時健康診断の際にも丁寧に対応することができた。
- ・地域教育支援会議で、情報が得られた児童については、就学時健康診断と交流活動「学校ごっこ」の際に行動観察を行い、学級編成と入学後の支援体制構築に生かすことができた。

### 3 課題

- ・サポートファイルや個別の教育支援計画等の効果的な活用を含め、就学後の支援の充実と中学校への引き継ぎをどのようにしていくか。
- ・相談につながりにくい家庭への支援や関係機関との連携をどのようにしていくか。